

震災がれき受け入れ

県議会議長、前向き姿勢

県議会の山本教和議長は十二日の定例記者会見で、東日本大震災で生じたがれきの受け入れについて「オールジャパンで進めないといけない」と述べ、初めて前向きな姿勢を示した。

「オールジャパンで」

山本議長は「遅々として進まないがれき処理に胸を痛めている」とし、「オールジャパンで取り組まない

今後どうやって協議していくのかというところに進んでいくのではないかと期待感を示した。

震災がれきの受け入れについて、「中立」との立場を示している鈴木英敬知事の姿勢については、「中立のままでいいのかというところではなく、一歩でも前

に進めないといけない」とし、県議会の役割として「県内の施設をどう活用するかも含めて市町と議論してほしいと、執行部にさらに申し上げていくことが必要」と述べた。

また「放射能の安全基準の指標は国が決めるべき」と国への注文を示し、「(国

には)努力してもらっているとは思いますが、県民にとってはそこところ(＝放射能に対する安全性)はクリアされていないのが現状」と話した。

山本議長はこれまで、震災がれきの受け入れには慎重な姿勢だったが、考えが変わった理由については、「だんだんと国民のがれきに対する気持ちが前向きになっていっているのと、十一日の東日本大震災一周年追悼式に出席したり、テレビ報道などで(大震災の)あの現状を見たりして、オールジャパンで真剣に考えないといけないと思った」と語った。

(奥山隆也、廣瀬秀平)